

【前回会議の内容】

令和 6年度 第6回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 7年 3月 21日 14時 30分 ~ 15時 30分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

1 出欠状況

委員			事務局	
出席者	氏名	主な役職等	氏名	役職
	・荒井 紀子	・横田西条成美地域包括支援センター 管理者	・出口 てるみ ・鞍田 祐子	・ひらすまあらいべ管理者 ・ひらすまあらいべ看護職員

2 活動報告

活動状況	別紙参照
活動状況に対する評価等	<p>・出口：運営状況で示した通り、昨年末から10年以上の長期利用者を含む高齢者が立て続けに3名自宅で亡くなられ、他2名は入所やGHへ移行されたので登録人数が激減した。3か所の包括支援センターへ空き情報を伝えたが紹介が無く、越冬で入院しておられた方が戻って来られただけ。この先に1名手術予定で入院のため1か月サービス提供中止の利用者もある。小規模多機能型の通所や訪問、泊まりサービスを利用するほど重度の方を在宅で介護しようという家族がおられなくなった？</p> <p>⇒包括：担当地域だけではなく全体の流れとして、新規要介護認定の申請数は増加していて特に軽度者のリハビリデイを希望する方が多くなった。ギリギリまで何のサービスも利用されずどうにもならなくなって重度の方が申請されるというパターンは昔に比べると少なくなった。それに加え最後まで地域の中で暮らし続けたいという本人とか、最後まで自宅で介護するという家族が減少傾向にある。</p> <p>・出口：高齢者の介護保険利用者よりも障がい者児の方のサービス利用が増えつつある。あらいべはまだ顕著ではないが、本家は高齢者と障害者児の割合が2～3：8～7となっている。</p> <p>・地域で暮らす高齢者は少なくなってきたが、障がいを持つ方や何年もの間自宅で引きこもっている方も相当数おられると思う。そのような方へのサポートとして居場所作りがある。先日、大阪で開催された地域共生ケア全国ネットワークのフォーラムに参加し、触発されたというか、大阪の町中にいろんな形の居場所があり見学にも行ってきた。</p> <p>⇒包括：経営基盤は？NPOなのか？</p> <p>⇒鞍田：NPOの所もあれば、自費で自分のためにか、自分の楽しみとか、自分の思いを表現した、など色々あった。地域住民主導でというのが望ましいとのことだった。</p> <p>出口：ひらすまで何かできるとしたら、地域にどのようなニーズがあるのか教えてもらいたかった。</p> <p>包括：現在も支援している若年性認知症の男性がおられ奥様が介護しておられるが、デイサービスを探すと高齢者の通うデイサービスばかりで本人に適していなかった。それならばとご夫婦で若年性認知症の方の居場所を作られ、本人は理学療法士として仕事もできている。何かに特化した居場所なら小さくても作りやすい？あとはサロンのような場所があると気軽に立ち寄りやすい。</p> <p>鞍田：あらいべの2階が日曜日とか空いているし、看護師も在籍しているので「街の保健室」として健康チェックや相談にのったり、お茶を飲みながらただおしゃべりしたりできれば。子供に限らず誰でも食堂とか。</p> <p>⇒包括：高岡の御旅屋にある子ども食堂は市街地にあるからか、結構利用する人がおられる様子。もっと地域のニーズを掘り下げる必要がありそう。</p>

3 その他の意見

・在宅で看取りまで支援する際の24時間対応の医療機関について：包括支援センターから情報収集
---

令和 6年度 第 5回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 7年 1月 24日 13時 30分 ~ 14時 45分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

1 出欠状況

委員		事務局	
出席者	氏名	氏名	役職
	主な役職等 ・南 聖子 ・佐伯 知華子	・山田 ルリ子 ・出口 てるみ	・ひらすまあらいべ介護支援専門員 ・ひらすまあらいべ管理者

2 活動報告

活動状況
別紙参照
活動状況に対する評価等
<p>・昨年末に事業所自己評価を行い、その集計を外部的方4名に見て頂き外部評価をして頂いた。解答は3名あり。事業所内の状態がわからないと答えられた方もおられたので、会議に参加された際に1Fのホールの様子も見て頂こうと思う。事業所と地域との関りについてもわからないとの返答があったので、もっと情報発信が必要だと思われる。</p> <p>・昨年末から今年先週の間施設入所や入院、看取りが相次ぎ利用者さんが6人減少した。3か所の包括支援センターへ新規の利用者さんがおられたら紹介して欲しいとお願いしてある。</p> <p>(包括)⇒認知症のあるご主人の介護を要支援の妻が行っている家庭があり、サービス導入について相談中の方がおられるが、妻の方がまだ自分が世話できるので大丈夫と言われている。</p> <p>(ひらすま)⇒主介護者の妻がまだ動ける間にどこかのサービスに繋げておくことが大切だと思う。妻の身に何かしらトラブルが起きる可能性もあるし、緊急時に慌ててサービスを探しても対応できないかもしれない。小多機なら臨機応変に対応可能なので、検討してもらうように口添えを。</p> <p>・最近入所施設や居宅支援の事業所でも利用者登録の空きがあるようで、在宅サービスの利用者に限らず利用者の数が少ない？</p> <p>(あらいべ)⇒介護保険の申請やデイサービス自体が受け入れられなかったり、認知症とか精神科受診ということになればなお更抵抗があると思われる。また、1人暮らしの高齢者も増えつつあり、自分で不都合を自覚し介護保険を申請するようなケースは稀で、周囲の人から心配の声が上がって…というパターンがほとんどだと思う。認知症も初期の間から様々なアプローチができれば良いが、同居家族がおられても認知症だと思わなかったとか介護保険について全くの無知ということもある。</p> <p>(包括)⇒介護保険や認知症に関する情報不足であったり認識不足という事例は結構ある。地域差があるかも？</p> <p>・精神の障がいのある方や認知症の方を受け入れることに消極的な地域の方が多い？</p> <p>自分達とは異なる思考であったり違う行動をされるのではないかと？相手を理解しづらい。最近の傷害事件などを見聞きすると精神疾患を持つ方が事件やトラブルを起こしているのでは？という不安だったり、もしかすると自分が被害を被るのではないかと先入観など。地域によって温度差があるかも。</p>

3 その他の意見

<p>・以前あらいべを利用し現在入院治療されている方が在宅に戻られるかも。ご家族の意向に答えることができるようにできる限りのことをして、在宅生活を支えていきたいと考えている。</p>
---

## 令和 6年度 第 4回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 6年 11月 18日 13時 30分 ~ 14時 45分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

### 1 出欠状況 4名

### 2 活動報告

9月 15日以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡市民病院にて介護保険サービス利用者の退院前カンファレンスに参加</li> <li>・消防避難訓練、水害避難訓練実施</li> <li>・共生型生活介護サービスの現地指導 ・富山型デイサービス職員基礎研修参加</li> <li>・ボランティア：4人 来訪者：11人</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス利用者1名退院後サービス再開 家族へ加圧バッグ使用の経管栄養指導実施 ・リーダー委員会（虐待防止と感染予防について）</li> <li>・事例検討会参加 ・入浴用機械：バスアシスト試用⇒導入せず</li> <li>・砺波チューリップ公園へコキアの紅葉見物へ外出 ・本家と合同でバーベキュー</li> <li>・第11回地域共生ホーム全国セミナーin とやま開催、参加</li> <li>・介護保険サービス利用者宅で本人、家族、後見人と面談</li> <li>・本家と合同にてハロウィンパーティー開催 ・ヒヤリハット事例2件</li> <li>・ボランティア：4人 来訪者：8人</li> </ul>
11月 15日まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさなぎ病院地域連携室、透析室看護師長、主介護者と介護保険サービス利用者の冬期の入院受け入れについて相談</li> </ul>

### 別紙参照

### 活動状況に対する評価等

・国の施策は、障がいのある方もない方も地域の人たちが皆で支え合う、皆で見守るというようなことを言われるが受け皿の準備もなしに「地域へ」と言われても困る。認知症や障がいの有無に関係なく関りを拒絶して引きこもる方や暴力のある方については地域の受け入れは難しいと思う。

⇒先日のセミナーの講演の中でも不登校の子供たちや引きこもりの方たちの居場所作りを考える内容で、そういう活動に取り組んでいる人の発表もあった。まだまだこれから情報共有していく必要があると思う。

⇒情報共有することは大切。そういう意味においての地域ケア会議は重要だと考える。

・(包括)地域の現状は、何十年も引きこもっている人や認知機能が低下し介護保険サービス利用となり自宅へ訪問したら精神疾患を持つ子供さんや知的な障がいを持つ子供さんが同居していたという事例も珍しくない。というか、この先このような家庭がまだ増えていくと思われる。

⇒家庭、家族丸ごと支援が必要な場合が多い。高齢の親が介護保険サービスを利用して家庭内に入り込んでいる時は良いが、親が亡くなればそこでサービスはストップするので、その後の家庭は取り残されていってしまう。介入を拒まれることもあるため、支援するのも難しい。

・地域の訪問介護の事業所や小規模なデイサービス事業所が閉鎖するのはどんな問題があるのか？

⇒今年度も介護報酬の見直しがあったが、訪問介護の額が上がらなかったため経営が悪化して。人員不足もある。そもそも在宅で介護サービスを利用しながら最後まで…という介護家族も本人も減ってきている。国としては大規模施設で効率よく介護サービスを提供することを推奨していて、小規模事業所が経営難だと「規模を大きくしたら良い」というような返答をされる。また、加算をとれば良いとも言われるが、加算を取るためには職員を研修に出し資格をとり、経験年数の豊富な有資格者を揃え、膨大な申請書類を作成する必要があるため、加算を諦め赤字経営の事業所もある。

⇒諦めずにお上へ声を上げ続けなければ思いが届かない。

### 3 その他の意見

・地域の絆が希薄になりつつある。自治会の婦人会や老人会も廃止する町内も多くあり、以前のように費用を積み立てて食事会やお出かけるなどのお付き合いもなくなった。このままでは地域の力が消滅する。地子木町ではお茶屋さんでサロンのような集まりで体操したり、近所で見守りや声掛けが必要な人の情報共有したりしている。重苦しく考えず、ちょっとした集まりが大切。支援すると言っても自分たちができる範囲のことをすれば良い。いつか自分たちも支えてもらう側になるのだから。



## 令和 6年度 第 3回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 6年 9月 20日 14時 30分 ~ 16時 00分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

### 1 出欠状況

委員			事務局	
	氏名	主な役職等	氏名	役職
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒井 紀子</li> <li>・橋場 一孝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横田西条成美地域包括支援センター</li> <li>・開発本町自治会長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯 知華子</li> <li>・出口 てるみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人代表ひらすま管理者</li> <li>・ひらすまあらいべ管理者</li> </ul>

### 2 活動報告

活動状況
別紙参照
活動状況に対する評価等
<p>・10月27日に開催する地域共生ホーム全国セミナーinとやまについて：今回のセミナーは「能登半島地震の震災」と「引きこもり、不登校」がテーマになっている。一般的に不登校というと「いじめられて学校に行けなくなり不登校になった」と思われがちだが、保護者（特に母親）が行かせないケースが多い。理由としては学校の教育方針が気に入らない、とか自由に学べるフリースクールへ行かせる等）現実的な事を言うと本人がいじめで学校へ行きたくないケースは少ない。</p> <p>・今回のセミナーで講演される大空暁生さんも学生時代不登校だったが、自分は学校へ行きたくないことはなかったと。</p> <p>・地域の引きこもりの方への対応がどんどん増えている。地域包括支援センター→地域包括ケアシステムと重層的支援体制の整備が叫ばれており、高齢者本人の支援のみに留まらず引きこもりの家族の支援なども大きな問題となっている。しかもそのような問題を抱えた家庭の多さにも驚かされる。</p> <p>・能登半島地震で被災した七尾市にある富山型デイの仲間の事業所「ひなたぼっこ」さんがセミナーで登壇の予定。聞くとところによると発災の1月1日は事業所が正月休みで、翌日から安否確認や水の調達などの活動をしたそう。市役所の人に「手分けして水を配ります。」と伝えても管理が優先されてしまったとのこと。</p> <p>・地域包括も入所施設を抱えているため入所者の対応が優先され、地域の方の安否確認などは2日目からだった。ライフラインが機能していたのでグループラインでスタッフの招集をして、担当利用者の安否確認の優先度を確認しながら車で訪問できた。ライフラインがマヒした想定で訓練が必要と考え、歩いて地域を回ることを検討中。</p> <p>・グループホームなどの泊り機能を持つ事業所などはローリングストック（普段食べている食品を多めに買って備え→食べ→食べた分を買い足す食料備蓄法）のセットを準備しているとのこと。被災した時だけではなくコロナウイルス感染症が蔓延した時も役立つ。備えるだけ備えておいて臨機応変に使えばよい。</p>

### 3 その他報告事項

<p>・被災した際に電気が使えなくなると利用者さんの命に直結（吸痰機など）する場合もあるので、ひらすま2事業所で1台充電機が発電機を助成金の申請をして購入したいと考えている。</p>
---

・ひやりはっとの前回会議で報告した誤嚥について、改善策の実行で問題なく経口摂取できている。万が一窒息しかけている場合は背部の殴打法、ハイムリック法などの応急措置を身に付けておくのが望ましい。

・AEDもガイダンスに従えば誰でも使用できるとはいえ、実際に急変した人を目の前にすると怖じ気づいてしまうのでは？いざという時のために講習会に参加するとかして学ぶ機会があれば良い。

・開発本町のニコニコ農園で10月5日10時からさつま芋の芋ほりと焼き芋をつくるイベントを開催

令和 6年度 第 2回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 6年 7月 20日 13時 30分 ~ 14時 30分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

1 出欠状況

委員		事務局	
氏名	主な役職等	氏名	役職
出席者 ・今村 智子	・横田西条成美地域包括支援センター	・佐伯 知華子 ・出口 てるみ	・法人代表ひらすま管理者 ・ひらすまあらいべ管理者

2 活動報告

活動状況
別紙参照
活動状況に対する評価等
<p>・コロナウイルス感染症の発症状況について：関係各所との連絡の際、多くの事業所でコロナウイルス感染症の陽性者が発生していると聞いており、ひらすまでも数名の職員が陽性となり自宅待機となっている。今回の流行しているウイルスは今まで獲得した免疫力が意味を持たない程感染力が強いとのことで、より一層の拡大防止に努めていく必要がある。</p> <p>・今月発行するひらすま新聞から、ひらすま本家・あらいべの両事業所で発生した事故報告の内容を掲載していくこととした。きっかけは先日発生した誤嚥の事故で、ご家族から「ひらすまを長い間利用していたが、このような事故が起きたのは初めてだったので事故やヒヤリハットなどは起きていないと思っていた。」と言われた。が、ヒヤリハットや事故は起きていて県や市への事故報告はしている。当事者の方やご家族には事故発生時すぐに連絡し謝罪をして、職員全体で情報を共有し反省するとともに今後どのようにすれば同じ失敗を繰り返さないか改善案を話し合うことにしていると伝えると「せっかく職員全員で考えてより良い事業所になるように努力しているのに、利用者も地域の人も誰もそんなこと知らないのではないか？ひらすまと一緒に自分も成長していきたい。今回の件もひらすま新聞に掲載してもらいたい。」との意向を受けての事である。→改善策がスタッフ全員に浸透していなかったことが判明し、情報を全員で共有する難しさを改めて痛感している。</p>

3 その他報告事項

<p>・コロナウイルス感染拡大で中断していた感謝祭を5月に開催させてもらい、たくさんの方に協力して頂き、楽しんでもらえた。ひらすまで作ったのは豚汁のみで販売はB型就労のはたらくわのスタッフと利用者さん、おにぎりはB型就労の事業所(お弁当屋さん)で働くスタッフと利用者さんがおにぎり作成、運搬、販売まで。クッキーや小物の販売を障がい者相談支援事業所のこぼんさんなど、外部の事業所の方に協力して頂いた。せともの市やバザー一品、豚汁の売上金の中から経費を引いた金額を1月の地震で被災した富山型の仲間に支援金として寄付する事となっている。</p> <p>・10月27日にとやまサンフォルテにて第11回地域共生ホーム全国セミナーinとやまが開催される。今回の能登沖の震災で被災した当事者である輪島市や七尾市、氷見市の事業者が登壇する。基調講演には、NPOあなたのいばしょ理事長の大空幸星氏を招待している。大空氏は自らの学生時代に経験したことを活かし「信頼できる人に確実にアクセスできる社会の実現」と「望まない孤独の根絶」を目的にチャットを利用して世界中の仲間が相談を受け付けるという仕組み作りをし、一流企業からの寄付金を活用している。企業サイドも寄付金は税金対策や社会貢献をしているというイメージアップにもつながるとのこと。メディアにも数多く取り上げられ出演しているし、世間の注目度の高い方の講演を是非聞きに来てもらいたい。</p>
---



# 令和 6年度 第 1回 地域密着型サービス運営推進会議 報告書

サービス種別	小規模多機能型居宅介護
事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ
開催日時	令和 6年 5月 20日 13時 30分 ~ 14時 30分
開催場所	ひらすまあらいべ2F

## 1 出欠状況

委員		事務局	
氏名	主な役職等	氏名	役職
出席者 ・橋場 一孝 ・尾崎 憲子 ・吉井 佐代美 ・針本 久美子 ・中嶋 ひなた	・開発本町自治会長 ・地子木町民生委員 ・開発本町福祉活動員 ・横田西条成美包括支援センター ・富山県高岡看護専門学校	・佐伯 知華子 ・出口 てるみ ・山田 ルリ子	・法人代表ひらすま管理者 ・ひらすまあらいべ管理者 ・あらいべ介護支援専門員

## 2 活動報告

活動状況
別紙参照
活動状況に対する評価等
<p>・高齢独居の利用者宅へ住宅改修詐欺が疑われる事例があった。(埼玉県の事業所広告や名刺、本人の貯金通帳などが座敷のテーブルにあり、名刺の電話番号に電話してみたが認められず不自然だった)家族と地域包括支援センターに連絡し消費者センターへ相談。契約済みの状態だったのでクーリングオフの手続きをし、高岡警察署生活安全課へ相談に行き、ぎりぎりのタイミングで金銭支払いの被害を回避した。震災後、県外から詐欺業者が回ってきている。認知症や判断能力の低下している住民の名簿が出回っているとも聞いた。地域での見守りが重要。要注意。</p> <p>・ひらすま開所20周年を迎えた。初期のころから利用されている障害のある子供たちは成人となり保護者の方は高齢になられた。最後まで地域で過ごせるようにと思って活動してきたが、実際はいろいろな問題が発生し入所に向けての支援が多くなっていく。重度の障害がある子供達が地域の中で最後まで住み続けることはとても難しいと実感している。⇒医療の発達に伴い、重度の障害がある子供達が通学しているこまどり支援学校の生徒さんも増えてきて、重症度も高くなってきていると聞いている。⇒ひらすまにもこまどり支援学校の卒業生が引き続き生活介護サービスを利用されている。保護者の方が元気で動ける間に入所施設やGHなど行先の見通しを付けていかななくてはならないと感じている。</p>

## 3 その他報告事項

<p>・開発本町自治会長さんより:① 5/25(日)9:30からニコニコ農場で開発本町児童クラブの子供たちがさつま芋の苗植えをする予定。利用者さんで参加できそうな方がおられたら一緒にどうぞ。</p> <p>② 開発本町は町内の9割以上の家庭が結ネットを利用して、各家庭への連絡は取りやすい。1月1日の能登沖地震の際も、津波は3メートルと発表され配信されたので、慌てた住民の皆さんが成美小学校に避難された。しかし、小学校がすぐに定員オーバーとなり、高台へということで二上さん方面に避難された人もいた。実際の津波は数十センチということだったが、避難所の不備がいろいろと見つかると、意義のある避難所開設となった。また、防災士を増やす計画があり、実際の避難所運営において女性の目線で意見してもらう必要があるため、3人の内1人は女性防災士と考えて講演を聞きに行ったり講習を受けたり、勉強をしているところである。</p> <p>③ 今回の地震では後から公民館の屋根瓦がずれ雨漏りしていたことが分かり、また神社の灯笼が壊れたりして後始末や補助金申請の手続き、保険の見直しなど様々なことが新たに必要となった。住民の皆さんの中には今でも精神的な症状で苦しんでおられる人もいるのではないかと。東北の震災の際には身近な人がトラウマで引きこもりがちになってしまったこともあった。⇒その人一人ひとりで精神的なダメージの大きさは異なるので、立ち直るのに時間を要する場合もあるということを皆が認識しておくべき。</p>
--

## 4 要望、助言

要望、助言等
・5/26日(日)にひらすま感謝祭を5年ぶりに開催するので、地域の皆さんも是非参加してください。